

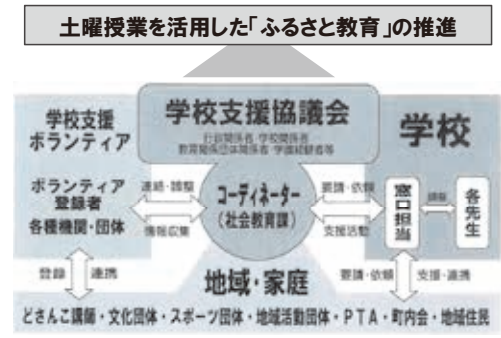
土曜授業を活用した「ふるさと教育」の推進

北海道白糠町	● 活動名	● 関係する学校名
	白糠町土曜授業	白糠町立白糠小学校、白糠町立庶路小学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	176 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 11 人	連携団体・企業等	白糠アイヌ文化保存会
ボランティアの数	登録人数 17 人	属性	地域住民 等		
参考 URL					

● 連絡先 白糠町教育委員会社会教育課 ☎ 01547-2-2287

● 体制図



● 活動の概要・経緯
 白糠町内の小中学校では、平成 28 年度より年 5 回の土曜授業を実施している。地域資源を有効的に活用しながら地域の文化団体や町内会、企業などと連携・協力し、白糠町が教育の基軸としている「ふるさと教育」をより充実させるとともに、子供たちの学びをより豊かにし、地域全体で育てる体制づくりを進めている。「ふるさとのよさをみつめ、ふるさとを愛する子供」「豊かな心をもち、生き抜き子供」「ふるさとを創る子供」の育成を目指し、地域全体で「ふるさと教育」を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 白糠小学校では、白糠アイヌ文化保存会による出前授業を全学年で実施している。①カルタによるアイヌ語学習、②伝統楽器である「ムックリ」の演奏体験、③古式舞踊和踊りの体験、④アイヌ民族料理の調理体験、と学年に応じた内容を取り上げ、地域のアイヌ文化を学ぶ取組が行われている。子供たちが郷土の歴史や文化について理解する上でアイヌ文化は大変重要なものであり、系統的・段階的な学習を行うことで子供たちは地域に関する知識や理解を深めている。
- 庶路小学校では、地域の町内会や企業と合同で津波避難訓練を実施し、地域の課題を共に考える機会としている。訓練当日は、地域の人々が避難経路に立ち、子供たちを見守りながら避難し、安全を確保した。地域は海岸に位置していることから大津波に対する防災教育が重要である。地域の人々とともに課題を見つめ、行動につなげる力を培っている。

【実施にあたっての工夫】

- 土曜授業等を活用して、地域とつながりの深いアイヌ文化や伝統について学ぶことで、ふるさとの理解を深める機会を充実させている。全学年を対象に発達段階に応じた活動を展開し、子供たちが親しみやすい内容で構成している。
- 安心・安全な地域環境を整備し、子供と地域が安心して生活できるよう、地域と連携した防災教育を実施している。
- 教育委員会社会教育課が学校支援協議会のコーディネーターとなり、地域と学校とが連携することで、土曜授業の更なる充実を図るとともに「ふるさと教育」の推進に努めている。
- アイヌ文化を学ぶ体験的な活動は、土曜授業を中心に実施しているが、調査・探究などの学習は平日の学習で行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域の文化に触れ、地域住民と関わる機会を充実させることで、子供たちの学習がより一層深まり、地域の良さや課題を共に見つめるきっかけとなった。また、アイヌ民族についての理解を深め、ふるさと白糠の歴史や文化について学ぶことができた。
- 地域と連携することで、白糠町「ふるさと教育」の推進に向けた取組を一層深めることができ、平成 30 年度より庶路地区で開始するコミュニティ・スクール制度導入へ向けた土台づくりにつながった。

● その他

白糠小学校アイヌ文化出前授業（白糠アイヌ文化保存会）、庶路小学校合同避難訓練（東和食品、下庶路町内会）



白糠小学校のアイヌ文化出前授業



庶路小学校の地域合同避難訓練

ポイント

学校の授業とリンクさせたふるさと学習の事例です。調査・探求は授業（学校教育）、体験は土曜日（社会教育）といったように役割分担して、相互補完しながらより深い学びを实践できており素晴らしいですね。